

会 議 録

| | |
|--|--|
| 会議の名称 | 令和6年度第2回日向市男女共同参画推進審議会 |
| 開催日時 | 令和6年11月13日（水） 13時30分から15時00分まで |
| 開催場所 | 日向市民健康管理センター 2階多目的ホール |
| 出席者 | 出席委員：10名／15名中 足立佳代会長、本山隆太郎委員、古賀弘徳委員、児玉雅彦委員、井上和臣委員、岩田政詞委員、橋本博委員、藤井さとみ委員、横山友梨子委員、酒井玉美委員 事務局：3名 総合政策部 濱田部長、総合政策部 小坂地域コミュニティ課長兼人権・同和行政・男女共同参画推進室長、総合政策部 地域コミュニティ課 人権・同和行政・男女共同参画推進室男女共同参画推進係 林田 |
| 議 題 | 「第6次日向市男女共同参画プラン」（令和5年度分）施策評価について |
| 会議資料の名称及び内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 会議次第 ・ 日向市男女共同参画推進審議会委員名簿 ・ 第6次日向市男女共同参画プラン ・ 令和5年度「第6次日向市男女共同参画プラン」関連事業実施状況報告書(案) ・ 関連講座案内チラシ |
| 記録方法 | <input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録 |
| 会 議 内 容 | |
| <p>■開会（司会：小坂課長兼室長）</p> <p>■議事（進行：足立会長）</p> <p>令和5年度「第6次日向市男女共同参画プラン」関連事業実施状況報告書（案）に基づき、事務局から説明を行った。</p> <p><質疑応答・意見交換></p> <p>基本目標Ⅰ 男女共同参画社会に向けた意識づくりについて</p> <p>（委員） 講座等の年代別の参加者数は把握しているか。</p> <p>（事務局） 講座等開催の都度、アンケートを実施し年代等を把握している。さんぴあの講座に関しては、大体60歳代以降の参加者が多い。開催曜日や時間帯が影響しているためか、特に若い方の参加は少ない状況にある。</p> <p>（委員） さんぴあの会長として、講座参加者の募集には毎回苦労している。前年度は19時</p> | |

開催ということが多く、仕事が終わって来られる大人の方を対象にしていたということがある。このことを踏まえ、今年度は土曜日の昼間開催も試行的に行っている。高校生や20歳代の方をどのようにして集めるかが、私たちの課題となっている。

(委員) 夜間開催の講座は、特に高校生などにとっては親の許可や送り迎えが問題になるから大変。しかし、私が参加するさんぴあでの夜の集まりには、高校生が結構来ている。内容が面白いからだろうと思う。だから、やはり声の掛け方などを考えると夜でも可能ではないか。私もさんぴあの講座にはかなり出ているが、とても充実した講座が用意されていると思う。

基本目標Ⅱ あらゆる分野における女性の参画拡大と活躍について

(委員) 男性の育休については、育休を取れなかった理由が問題だと思う。そういった点についてアンケート調査などを行うと、職場の課題等が見えてくるのではないかと考える。そうしないと取得率100%にはなかなか到達しないのではないかと考える。

(委員) 最近、男性の「取るだけ育休」という言葉を聞く。育休を取って家にいて助かったという人、家に1人増えて余計に大変だったという人など、育休を取ったことに対してどうだったかリアルな声を聞きたいと思う。名も無き家事など、やってみないと分からないことはたくさんあるので、色々経験することが良いと思う。

(会長) 今の話は、男女共同参画の根幹に関わる意識のところである。家事はマネジメントと言われるが、食事を作るためには普段家にどういうものがストックされているか把握して食材を準備するなど、そういうところから分かっていないとできない。こういったことに男女問わず参画していく、ということではないかと思う。

(委員) 私自身は意識が少し変わってきたと自分では思っているので、この啓発活動を広げていくことを根気強くやっていく必要があると思う。

基本目標Ⅲ 安全・安心な暮らしの実現について

(委員) 41ページの数値目標23のデートDV防止講座への参加者数は、門川高校で行ったということで増えているが、市内の各高校でこのような講座を行う予定はあるか。

(事務局) ぜひ開催したいが、今のところ具体的な計画はない。以前、打診した際、年間のカリキュラムを既に組んでいるとの話も聞いた。

(委員) 学校では、年間行事を載せる経営案が作られるため、講座開催年度の前年度の早い時期に学校へ打診するのが良い。こういう依頼も根気強く行う必要があると思う。

(会長) 各高校などでは、年に数回、人権に関することを生徒が学ぶようになっていると聞く。講座の実施には、やはり前の段階から根気強く依頼する必要があると考える。

DVのことで尋ねたいが、日向市での相談状況はいかがか。

(事務局) 毎月のように、新しい方の相談を受けている状況。日向市では、私の係以外にも、お子さんや高齢者に関する課などで相談を受けることも多い。いきなり市役所へ相談に行くのをためらわれる方が、市の男女共同参画社会づくり推進ルーム「さんびあ」の相談室へDV相談をされ、市役所につないでもらうケースもある。先日、出席した県内のDV防止に関する会議の場で、「相談をしない人の中には、自分が受けているのがDVと認識していない場合や、認識していても逃げた後の生活費等を不安に思い我慢している人もいる。」との話があった。こういったことを念頭に、周知啓発や支援を行う必要があると、あらためて考えた。

(会長) 本来ならば、加害をしないために小さいときから教えないといけない。圧倒的に女性の被害者が多く、男性の加害者が多いと言われる。そこには、やはり男性へのケアの少なさがある。男らしく強く育てられ続けると、その反動で自分は何をしても良いという考えにつながる。そういう意味で、学校教育の中でも人権の視点を持った性教育、包括的性教育に取り組んでいけたら良いと思う。ほかにないか。

(委員) うちは、市と同じく公的機関であり、働く場における女性参画推進ということについて、中心となって取り組むべき立場にあると考える。制度や有益な情報などを、いかに市民の皆様に伝えていけるかが重要であると痛感する。ぜひ、市と密に連携し、発信・共有できる仕組みを強化したい。

(委員) 男女共同参画とは、人権として1人1人を大事にするということなのだと思うと、日頃の保育や保育参観のあり方など、その都度職員と話し合いながら頭の中をアップデートしていかなければいけないと考えながら、日々業務に当たっている。

(委員) 人権差別をなくすために、地域住民が興味を持って集まれるような方法が何かないかと思う。先ほど講演会の話が出たが、地区で班回覧すれば住民にある程度周知できると思うので利用していただきたい。それと、男性の育児や料理などは、高齢になってからだと難しい面もあるため、若い世代からの取組が大切と感じた。

(委員) デートDV講座を高校で行っているとの話があったが、成長が早い子が多いので中学校でも取り入れていくと良いと考える。保護者世代は30代、40代が多いが、保護者に向けた家庭教育学級にも取り込めたら良いのではないかと思う。

(会長) 本日は男女共同参画プランについて確認したが、担当課がいろいろと分かれ、一緒にすると良いと思う部分もあり、1つの課題ではないかと考える。また、検討願いたい。